

ヘブル10:32-39; 「DETOUR: 背教から逃れるために」 2025年3月16日

I. 歓迎とレビュー

A. おはよう! おはようございます! カルバリーチャペル岩国へようこそ。

1. 新顔やネット配信者を歓迎する。抑止力

B. これ以上続ける前に、小学生の子供たちを日曜学校の教室に解散させよう。

1. (2<sup>nd</sup>礼拝; 聖書英語のクラスは忘れずに解散する)

C. 子どもたちが外に出て行くので、残りの人たちは聖書を開いて、ヘブル人への手紙10章に進んでほしい。

1. 、続きである。先週一緒にいた方は、ヘブル人への手紙の著者が、この手紙にある5つの厳粛な警告のうちの4つ目を語ったことを思い出していただきたい。
2. 先週取り上げた4つ目の警告は、非常に強いものであり、おそらく最も恐ろしいものだと思う。それは背教に対する警告であり、キリストへの信仰から離れることである。
3. 著者は、キリストへの信仰を捨て、モーセの律法に従うユダヤ人のルーツに戻るよう、当局からさまざまなレベルの迫害を受けたり、家族から圧力を受けたりしている人々に向けて書いた。
4. 彼らが直面している困難と、あきらめて以前の生活に戻ってしまう誘惑を知っていた著者は、4つの異なる事柄を含む背教に対する非常に厳しい警告を与えた。
  - a. 意図的に、意図的に罪を犯し続けたのだ。
  - b. それは審判への期待を含んでいた。
  - c. キリストを完全に拒絶したのだ。
  - d. そして最後に、それは神の正義に関わるものだった。
5. キリストとキリストの犠牲を拒否すれば、罪が赦されたり取り除かれたりする可能性はなくなる、と著者は厳しく警告している。彼らは、キリストの大いなる白い御座の裁きの前に、自分自身の罪、自分自身の行為について責任を負い、有罪とされる運命にあるのだ。
6. つまり、死と神からの分離だけでなく、聖書が地獄と呼ぶ場所での永遠の苦しみを意味する。

D. 先週一緒にいた人が、今週末来てくれてとてもうれしい。

1. というのも、著者はこれまでと同じように、恐ろしい警告の後に、励ましと安心させる言葉を添えているからだ。
2. 先週の学びとテキストは、非常に挑戦的な励ましだった。今週の学びとテキストは、とても慰めになる励ましだ。そして皆さんがそれを受け取るためにここにいることを嬉しく思う。

E. 今朝のテキストはヘブル人への手紙第10章32節から39節までである。

1. 皆さんはもうヘブル人への手紙にたどり着いたことだろう。この際、皆さんには主と主の御言葉を称え、立ち上がっていただきたい。
2. 私の聖書からテキストを読んでいく。著者は10章を次のようにまとめている。

II. イントロ

- A. 今朝のテキストは、非常に重要な言葉で始まっている。小さな言葉だが、重要な言葉だ。私は、この言葉がNKJVだけでなく、他の含まれていることを確認するために、他の多くの聖書訳をチェックした。
1. 原語のギリシャ語には間違いなくある。そして、私が調べたNIV、NLT、CSB以外のほとんどの英訳にもある。
  2. しかし、それはNKJV、KJV、NASB、ESV、LSB、そして他の多くの言語にある。
  3. それは「しかし」という言葉だ。そして「しかし」は非常に重要な言葉である。私たちがこの言葉を取るに足らない小さな言葉だと思うかもしれないが、著者が書いていることを理解する上では極めて重要な言葉なのである。
  4. 「しかし」とは対照的な言葉である。ギリシャ語の "de" という単語で、この32節では逆接助詞として使われている。著者はこの言葉を、今言ったことと対比して使っている。
  5. これは非常に重要なことだ。というのも、彼は背教に対して非常に厳しい警告を彼らに与えたばかりだからだ。もし誰かがキリストを拒んだら、その人は自分の罪に答えなければならず、神はご自身の民をどのように裁かれるのか、そして、生ける神の手に落ちることは恐ろしいことであり、特に、自分を救おうとする神の試みをことごとく拒み、軽んじてきたときにはなおさらだ、と。それは恐ろしいことであり、非常にぞっとするような恐ろしいことなのだ。
  6. 「しかし…」と著者は32節を書き始めている。神はご自身の民を裁かれ、それは恐ろしく恐ろしいことである。"しかし..." 著者は今、神の裁きとは対照的なことを語っている。
  7. ギリシャ語でこの言葉は「しかし」、「逆に」、「」を意味する。私たちが理解する上でとても重要な言葉だ。
  8. 裁きに直面する必要はない。生ける神の手に落ちることは、恐ろしくて恐ろしい考えである必要はない。
  9. この背教の危険を回避し、回避する方法がある。
- B. 私たちの研究では、テキストを3つの異なるセクションに分け、それぞれのセクションで背教を避けるために何が必要かを示していく。
1. この警告、すなわち背教の危険にどう耳を傾け、背教から完全に逃れるための回り道をどうすればいいのだろうか?
  2. 冒頭の32-34節をご覧ください。

III. ヘブル10:32-34; 過去を理解する

- A. 著者はまず、自分たちが照らされた後の、かつての日々を思い起こし、それがどのようなものであったかを思い出すよう、聴衆に勧めている。背教を避ける鍵のひとつは、**過去を理解することにある**。
1. "illuminated" という単語は "悟りを開いた" と訳せる。そして、考え方は極めて単純であるように思われる。著者は聴衆に、キリストの福音によって啓発された後、主の光が彼らを照らし、キリストを信じるようになった後、それがどのようなものであったかを思い出すように求めているのである。
  2. タルソのサウロがキリストを信じるようになったとき、主の光が彼の上に照らされたように、これらの人々も主の光が彼らの上に照らされた。
- B. 今、聴衆に過去を思い起こすように指示するために、彼は彼らが苦しみとの大きな闘いに耐えていた季節を持ち出した。そして彼は、彼らの過去の苦しみの4つの異なる側面に注目する。一緒に覚えておこう。
1. その1、著者は、彼の聴衆が非難と苦難の両方によって見世物にされたことに触れている。
    - a. 見世物にされることの背景には、世間の恥や軽蔑という考えがある。それは、一般大衆のためのちょっとしたエンターテイメントにされることに関係していた。
    - b. ここで使われているギリシャ語は「テアトリゾ」という言葉だ。これは「劇場」という言葉の語源に由来し、皆に見せるために舞台上に上げられ、一般の観客の前で恥をかかされることを意味する。
    - c. 著者が書き送った人々の中には、公衆の面前で殴打されたり、鞭打たれたり、その他の苦難に直面した人もいた。ここでの "苦難" は、押しつぶされ始めることを意味する。
    - d. また、非難によって世間から軽蔑され、不名誉を受けることもあった。これは肉体的な攻撃というよりも、言葉による侮辱を意味している。しかし、彼らが経験した恥と屈辱は同じだった。
    - e. キリストへの信仰のゆえに、これらの人々は他の人々の前に引き出され、あざけら。救い主がカルバリの十字架にかかれる前にそうであったように。
    - f. 彼らはイエスをあざけた。王族の衣装を着せ、いばらの冠をかぶせ、彼を殴り、あざけた。彼らは、「ここにお前たちの王がいる」と言って、あざけりながら彼を民衆に差し出した。キリストは公然とあざけられ、殴られたのである。著者が書いている人々は、キリストを信じる信仰のために見世物にされ、あざけられ、同じような行為に耐えてきたと思われる。
    - g. もちろん、これは驚くべきことではない。これこそ、イエスが言われたことだから。イエスは弟子たちにこう言われた。

彼らはわたしを迫害した。彼らがわたしを迫害したなら、あなたがたも迫害するだろう。(ヨハネ15:20a)

- h. つまり、これらの人々はキリストへの信仰の一部として、公の恥辱と虐待に苦しんでいたのだ。しかし、それだけではなかった。
2. その2、彼の観客の中にも、そのような扱いを受けた人々の仲間になったために苦しんだ者がいた。
    - a. このような公然の恥辱や暴行を経験しなかった人々は、そのような人々に寄り添い、援助や支援を提供しながらも、しばしば苦闘していた。彼らはそのような人々の仲間になり、彼らに手を差し伸べ、奉仕した。
    - b. そしてその結果、一般大衆が彼らに対して示す全体的な軽蔑の中で、彼らはしばしば彼らと一緒にされた。
  3. その3、聴衆の中には、公に嘲笑された人々だけでなく、キリストへの信仰のゆえに投獄された人々と親しくなった人さえいた。そしてこれもまた、彼らにある種の苦しみを経験させた。
    - a. さて、NKJVによれば、聴衆はキリストへの信仰のために投獄された実際の作者を憐れんだという。
    - b. 他の訳では、彼らは囚人を憐れんだと書かれているだけで、著者がその囚人の一人であることは明示されていない。いずれにせよ、これらの人々は、犯罪者と関わるだけでなく、犯罪者のそばに来て、彼らに奉仕し、憐れみをもって彼らを慰めたのである。
    - c. 彼らは囚人たちに同情した。ここでのギリシャ語は "sympatheo" で、文字通り「共に苦しむ」という意味だ。囚人たちを敬遠し、距離を置くのではなく、囚人たちに寄り添い、共に苦しみを分かち合ったのである。
    - d. 彼らは互いに助け合い、キリストへの信仰ゆえに犯罪者として縛られている人々を憐れむためにそこにいた。
  4. 最後に、4番では、キリストへの信仰のゆえに、自分の財産を奪われ、略奪される苦しみを味わったことがわかる。
    - a. これは、彼らが家から追い出され、町から追い出されることを指しているのかもしれない。
    - b. クラウディウス・カエサルスの権威の下、ローマでこのようなことが起こったことは知っている。使徒言行録の中で、パウロがボントス生まれのアキラというユダヤ人に会ったとき、そのユダヤ人は妻のプリスキラとともにイタリアから来たばかりであった（クラウディウスがすべてのユダヤ人にローマを去るように命じたからである）。(使徒18:2)
    - c. アキラやプリスキラのように、ローマを追われ、自分の家を捨てざるを得なくなり、

出発後に家を荒らされた人たちによって略奪され、品物を押収された人たちがいたのかもしれない

。

- d. しかし、このような攻撃、苦闘、迫害を経験したときの人々の態度に注目してほしい。彼らは喜んでそれを受け入れたと書いてある。
- e. それは、神殿でイエスの名を宣べ伝えたために投獄され、殴打された使徒たちの反応を思い起こさせる。使徒言行録5章によれば、使徒たちは、イエスの（キリストの）名のために恥を受けるにふさわしいと認められたことを喜び、議会の前から去って行った。(使徒5:41)。
- f. イエス御自身が言われた、「義のために迫害される人々は幸いである。彼らが、わたしのために、あなたがたをのしり、迫害し、あなたがたに偽りの悪口を言うとき、あなたがたは幸いである。天において、あなたがたに与えられる報いは大きいからである。(マタイ5:10-12)
- g. パウロはローマの信徒への手紙に、キリストに従う私たちがいかに苦難の中で栄光を得ることができるかを書いている。苦難は忍耐を生み、忍耐は品性を生み、品性は希望を生む。私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからである。(ローマ5:3-5)
5. このような苦労や苦しみはすべて、彼らを成熟させる効果があった。彼らは信仰を深め、忍耐力を養い、人格が形成され、希望が確かなものとなった。
- C. そして、ここに鍵がある。32節に、彼らは「苦しみとの大きな闘いに耐えた」とある。彼らは忠実であり続けた。
1. それが「耐える」という言葉の意味である。文字通りには「とどまる」という意味だ。ギリシャ語では "hypomeno"[hoop-om-en-o]といい、"hupo"は「下に」、"meno"は「とどまる」という意味である。両者を合わせると、「下にとどまる」という意味になる。彼らは耐えた。彼らはその苦しみの下にとどまり、逃げも隠れもしなかった。逃げようとしなかった。
  2. 彼らは自分の立場に立ち、信仰を捨てず、同じような葛藤や苦しみを経験しているキリストにある同胞の兄弟姉妹を見捨てなかった。彼らは耐え抜いた。彼らは、神がそのような状況の中で、またそのような状況を通して働いてくださることを許し、ご自身の忠実さを証明したのである。
  3. 神はこれらの苦しみを用いて、これらの人々を型にはめ、形作られた。彼らを成長させ、信仰を成熟させるために。そして、神は私たちの人生においても同じことをして下さる。私たちが喜んで耐え忍び、神がご自身の忠実さを証明する機会を与えてくださる限り、神は苦しみを通して私たちを成長させ、成熟させてくださるのだ。
  4. どうすれば背教を避けることができるのか。その一つの方法は、過去を振り返り、**神の誠実さを思い出すこと**だ。
    - a. 私たちを多くのことを通して見てこられ、何度も何度も忠実であることを証明してこられた。そして私たちは、神の過去の誠実さを振り返ることができる。

そして、私何が起ころうとも、神に従い続けるための方法としてそれを用いるのだ。神の過去の誠実さは、神がこれからも誠実であり続けることを保証してくれる。

- b. 何があろうとも、神は常に忠実であり続ける。それは神の本性の一部である。それが彼であり、彼自身を否定することはできない。
5. 著者は、聴衆にこれらのことを思い起こさせ、現在の状況において彼らを駆り立てようとしたのだ。神はすでにご自身の忠実さを証明され、神はすでに多くのことを通して彼らを導いてこられた。
  6. 彼らは振り返って、神がいかに彼らとともにおられたかを思い起こすことができた。苦難の中で、彼らがいかに喜ぶことができたかを。
  7. この人々は、再び同じような迫害に直面していた。そして著者は、彼らがかつて大きな葛藤の時、苦しみの季節に、神が彼らのうちに、彼らを通して働かれるのを見た喜びを、振り返って思い出してほしいと願った。
  8. 神は彼らとともにおられ、神は彼らを通して偉大なことをしてくださった。
    - a. つまり、彼らはたちの商品が略奪されるのを喜んだのだ。誰がそんなことをするんだ？
    - b. 誰なのか教えよう。キリストに完全に献身している人々だ。この地上での財産よりも、天国での財産のほうに関心がある人たちだ。この地上での一時的なことではなく、天国での永遠のことに集中している人々だ。
- D. そしてそれは、私たちがこの背教の危険から逃れるためのもう一つの重要な方法である。35-38節と一緒に読もう。

#### IV. ヘブル10:35-38; 未来を理解する

- A. 過去と、それを見守り、耐え忍ぶことを助けてくれた神の誠実さに観客の注意を引いた後、著者は次に、私たちを待ち受けているものと、**私たちの未来を理解すること**の重要性に観客の注意を引く。
1. 34節の終わりに、著者は、彼らが苦しみを喜ぶことができるのは、天にもっと良い、永続的な財産があることを知っているからだと言った。
  2. そこで語られていることの意味を理解することが重要だ。より良い、永続的な所有物がある。私たちが経験する苦しみは一時的なものだと理解しなければならない。しかし、天国での永続的な所有は永遠である。それは永遠に続く。
  3. だから、私困難に直面し、タオルを投げ出さなくなるときはいつでも、天国で私たちを待っている永遠の財産を思い出さなければならない。私たちは永遠の視点を持ち続けなければならない。
  4. 使徒パウロはこう言っている：「だから、私たちは心を失ってはならない。たとえ私たちの外なる人が滅びていっても、内なる人は日に日に新しくされている。一瞬にすぎない私たちの軽い苦難は、私たちのために、はるかにまさる永遠の重みを働かせているのである。

私たちは、見えるものを見るのではなく、見えないものを見るのである。見えるものは一時的なものであるが、見えないものは永遠だからである」。(2コ4:16-18)

- B. 未来に目を向けるよう私たちを励ましているこれらの聖句の中で、私たちの確信には大きな報い、より良い永続的な報いが伴うことを私たちは見て理解している。そして、その将来の報いには、ここで注目すべきいくつかの事柄が含まれている。
- まず第一に、私たちの将来の報いには、キリストにある将来の相続が関わっていることを理解しよう。36節には、神のみこころを行なった後に約束を受けるために、私たちがいかに忍耐を必要としているかが書かれている。
    - ヘブライ人への手紙9章では、キリストの働きと、キリストが「最初の契約のもとでの罪の贖いのために、死によって新しい契約の仲介者となり、召された者が永遠の嗣業の約束を受けるようにされた」ことが書かれている。(ヘブライ9:15)。
    - パウロはコロサイの信徒への手紙の中で、私たちが何をやるにしても、人のためではなく主のために、心をこめて行いなさい。(コロサイ3:23-24)
    - 私たちには、天国での永遠の相続が待っている。「御霊ご自身が、私たちが神の子であることを、私たちの霊とともに証ししておられる。もし子であるならば、神の相続人であり、キリストと共同相続人である。(ローマ8:16-17)
    - キリストへの信仰のゆえに、私たちはキリストと共同相続人となった。キリストは初穂であり、天におられる主のもとに昇られた。そしていつの日か、私たちも同じようになる。だから、私自信を捨てる勇気がない。私たちは、永遠の嗣業を見据えて歩み続けるのだ。
  - しかし、私たちの未来を理解するためには、背教の危険から私たちを守るためのもう一つの側面がある。
    - 37節と38節は、預言者ハバククの言葉の一部を引用している。ハバククは、主からのメッセージを与えられ、確実に過ぎ去る未来の幻について人々に宣言した。直接的な文脈では、イスラエル人に対する神の裁きが扱われていたが、ここでは、キリストが再臨されるときの裁きも含まれていることがわかる。
    - ハバクク2章には、「幻は、まだ定められた時のためである。それは必ず来るからだ。高慢な者を見よ、その魂は彼のうちにまっすぐではない。(ハブ2:3-4)
    - ヘブル人への手紙の著者は、非人称的な「それ」を人称代名詞「彼」に置き換えている。それ"が来るのではなく、"彼"が来るのである。イエスは来られる。

- そして、イエスが戻って来られることを知っているからこそ私たちの生き方に影響を与えるはずだ。
- 使徒パウロはテサロニケの教会で演説したとき、キリストの再臨と主の日について語りこら動めた。眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔う。しかし、昼の生活をしている私たちは、信仰と愛の胸当てを着け、救いの望みの兜をかぶり、身を慎もう。神は、私たちが怒りに定められたのではなく、私たちの主イエス・キリストによって救いを得るように定められたのです」(1テサ5:6-9)。
- キリストが戻って来られることを知っているからこそ、私たちは冷静な生活を送る。主が再臨されるその日まで、主が私たちに召された仕事に忙殺されたいからだ。
- 私たちは信仰によって生きる。本文の38節のように、「正しい者は信仰によって生きる」。
- ハバククが主を通して最初に語ったこの言葉は、NTでは3回繰り返され、繰り返されるたびに強調の仕方が異なる。
  - ローマ人への手紙1章では、信仰が強調されている。ローマ人への手紙を書いた使徒パウロは、福音は救いに至る神の力であり、「神の義は、信仰から信仰へと明らかにされる。(ローマ1:17)
  - ガラテヤ地方の教会に宛てた手紙の中で、使徒パウロは同じ聖句を引用したが、その最初の部分である「義人」を強調し、こう述べている。(ガラ3:11)
  - そして、ヘブル人への手紙では、著者はこの同じ節を引用している。そして、本当に強調されているのは、生きることであり、状況にもかかわらず、苦しみにもかかわらず、主のために生き続けることである。私たちは、信仰によって生き続けることによって、義と認められたことを示すのである。
- 38節にあるように、私たちはあきらめず、引き下がらない。自分の人生で起こっていることのすべてを理解できないときでさえ、私たちは信仰生活を続ける。
- この人たちは大きな迫害に直面しており、信仰を捨てなければならぬというさまざまな圧力を感じていた。キリストへの信仰を捨てさえすれば、自分たちの人生はずっと楽に考える誘惑は、とても現実的なものだった。
- 私たちがまた、同じ誘惑を感じる季節や状況を経験するかもしれない。プレッシャーに屈し、キリストに従うことを諦めてしまえば、人生はどうか楽になるだろうと。しかし、正しい者は信仰によって生きる。私たちは続けなければならない。36節にあるように、「私たちに忍耐が必要です」。

3. この「耐える」という言葉は、最初の数節ですでに述べた「耐える」という動詞の名詞形である。hypomone" [hoop-om-on-ay] という単語だ。私の辞書によれば、"ヒュボモネは希望と結びついており、試練に屈したり、状況に屈服したりすることを許さない性格の質を指す"とある。
- これが私たちに必要なものだ。持久力が必要なのだ。困難な状況に陥ったときに、降参したり、あきらめたり、タオルを投げ入れることを許さないような人格の資質が必要なのだ。
  - 私たちには忍耐が必要だ。悪い知らせの運び手にはなりたくないが、聖書はこの「忍耐」を得る方法を教えてくれる。
  - 信仰の試練が忍耐を生み出すことを知っているからである。(ヤコブ1:2-3)。
  - ヤコブは続けて言う。「しかし、忍耐が完全な働きをするようにしなさい。(ヤコブ1:4)」。
  - 私たちが切実に必要としている持久力は、どのようにして得られるのだろうか？ それは信仰の試練を通してである。試練と苦難を通してだ。
  - 敵は私たちに立ちほだかり、あきらめさせ、降伏させようと誘惑するが、主は同じ状況を用いて私たちを強め、成長させ、成熟させてくださる。
  - 私たちが直面するすべての試練や苦難において、敵が悪のために意図することを、神はご自身の栄光と私たちの益のために逆転させてくださる。
  - 私たちがさまざまな試練に陥り、苦難や敵からの攻撃に直面するとき、それを純粋な喜びと考えるのはとても難しいことだ。しかし、キリストを信じる信仰によって、私たちはそうすることができる。それは、私たちが何一つ欠けることなく完全な者となるために、神が私たちのうちに、私たちを通して行おうとしておられる働きの一部であることを知っているからだ。神には計画がある。私たちを完成させ、成熟させるために、神はこれらの困難を通して働こうとしておられるのだ。
4. つまり、天にある大きな報い、キリストによる嗣業、キリストの再臨を思い起こすことは、私たちが信仰によって生き続け、背教から逃れる助けとなることがわかる。

C. 最後の節を見て、背教から逃れるためのもう一つの重要な鍵に注意しよう。39節と一緒に読もう。

V. ヘブル10:39; 私たちの現在を理解する

- 私たちは、過去と神の誠実さ、未来と私たちを待っている報いを理解しなければならないが、現在の状況を理解する非常に重要である。
- 39節は英語ではちょっと言葉が多い。原語のギリシャ語では12ない。しかし、ほとんどの英訳では20語以上ある。
  - ギリシャ語の動詞は "eimi" だけである。

- ギリシャ語では、「引き下がる者たち」という表現は一語であり、NTではこの一度しか使われていない名詞である。これは「退く」という動詞の名詞形である。
- 信じる者たちのフレーズもギリシャ語では一つの単語で、これも名詞であり、著者が聴衆が誰であるかを述べている。信仰という言葉であり、信仰を持つ人を表している。
- そしてこのことは、著者の挑戦的な戒めと慰めの励ましの両方の文脈から、著者の言っていることを理解するためにとても重要なことなのだ。
- 彼は非常に挑戦的な戒めを持ってきた。信仰から背を向けることへの強い警告であり、それがもたらす恐ろしい結末である。
  - しかし、今日のテキストでは、彼は聴衆に慰めの励ましを与えている。過去を思い出し、未来を思い出すようにと。
- そして最後に、彼は現在に関して大胆な結論を出している。
  - 彼は彼らを信じている。彼らは退却者ではなく、背教者でもなく、信者であり、信仰の対象なのだ。
- 過去と神の誠実さを思い出すこと、そして未来と永遠の報酬を思い出すことも重要だが、現在の自分を思い出すことも非常に重要なのだ。
  - 私は今、キリストにおけるアイデンティティを理解することの重要性を説いた本を仲間たちと読んでいる。私たちが誰であるかは、私たちがするかよりもはるかに重要である。キリストにおけるアイデンティティが私たちを形作り、私たちを定義する。
  - コリントの信徒への手紙2章5章17節によれば、私たちは新しく造られた者であり、古い過ぎ去り、すべてのものが新しくなった。(2コリント5:17)
    - かつて私たちが何であったとしても、もはや私たちは違う。キリストにあって私たちは新しく創造された。私たちは新たなスタートを切ったのだ。私たちを重くしていた古いもの、この世の罪や重荷はすべて、キリストにあって、キリストによって取り除かれる。
  - エフェソの信徒への手紙1章で、使徒パウロは私たちがキリストにある多くのものについて書いている。
    - この章を全部読むしませんが、私たちはキリストにあって「祝福され」、「選ばれ」、「神の御前で聖なる者であり、罪のない者」である。私たちが「定められ」ており、神の息子 (&娘) として「養子」にされている。
    - 私たちは神の恵みを受け、神に受け入れられている。私たちが「贖われ」、「赦され」ている。私たちが「救われ」、「聖霊によって封印されている」。これらすべては、キリストとの関係において、またキリストとの関係を通して、私たちが何者であるかを示している。
  - 私たちが、代価を払って買われた僕たちだ。神は私たちを買い取るために、かなり高い代価を支払われた。その代償とは、神のひとり子の血である。

- i. そして、神が私たちのためにこれほど高い代償を払うことを厭わなかったのなら、神は私たちを守るために力を尽くしてくださいと思わないか？ 私たちを守るために？ 私たちが天国で神とともに終わることを保証するために？
    - ii. もちろん、彼はそうするだろう。
  - e. 私たちは神の子どもだ。神の家族に養子として迎えられたのだ。
    - i. 私たちの父として、神は私たちを見守ってください。私たちを守ってください。私たちが無事に天国に到着できるよう、できる限りのことをしてください。
  - f. 私たちは神に愛されている。
    - i. 神は私たちを愛している。それには意味がある。
    - ii. パウロはローマの信徒への手紙にこう書いている。艱難、苦難、迫害、飢饉、危機、剣のどれが私たちを引き離そうというのか。と書いてある：あなたがたのために、私たちは一日中殺され、屠られる羊のようにされている』。(ローマ8:35-36)。
    - iii. 「しかし、私たちを愛してくださった方によって、私たちはこれらすべてのことに打ち勝つ者以上になった。死も、いのちも、御使いも、主権者も、権力者も、現在のものも、来るべきものも、高さも深さも、その他の造られたものも、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできないと、私は確信している。」(ローマ8:37-39)
- 8. 私たちがキリストにあって、誰のものであるかを思い出すことが重要だ。私たちは主のものだ。神が私たちを持っている。私たちはやり遂げ、耐え抜き、引き返さない。神は私たちを見届けてくださる。私たちは神に頼ることができる。
  - a. 申命記31章にはこうある。「強く、勇気を持ち、彼らを恐れず、恐れてはならない。主はあなたを捨てず、あなたを捨てない。」(Dt.31:6)(申命記31:6)
  - b. 背教を恐れる必要はない。神は私たちの前に行く方であり、たちを決して捨てず、見捨てない方だからだ。私見捨てたり、見捨てられたりすることはない。
  - c. このことは確かだ。アーメン？ アーメン。祈ろう。